

# トンネル事故再発防止へ報告書骨子

5月29日 6時11分



K10049127211\_1305290757\_1305290805.mp4

中央自動車道笹子トンネルの天井板崩落事故で、国の事故調査委員会は28日、再発防止策を示した報告書の骨子をまとめ、点検や補修の記録を保存して維持管理に反映させるなど、被害防止のための取り組みを提言しました。

去年12月、笹子トンネルの天井板が崩落して9人が死亡した事故について、国の事故調査委員会は28日、設計や施工、それに点検の複数の問題が重なって重大な事故に至ったとする報告書の骨子をまとめました。この中で事故の再発防止策が示され、笹子トンネルの天井板をつり下げている接着剤を使うタイプのボルトは、ほかのトンネルなどで天井板や換気用のファン、案内標識などをつり下げる際にも原則として使用すべきでないと初めて指摘しました。

また、笹子トンネルで設計や補修などに関する過去の記録が十分に残っていなかったことを受けて、被害を防ぐために今後は設計や施工、点検、補修の各段階で、図面や不具合などの記録を保存し、その後の維持管理に反映させる仕組みを作るべきだと提言しています。

さらに、国や自治体、道路会社などが不具合に関する情報を共有し、設計や点検などの基準の見直しを着実に進める必要があるとしています。

事故調査委員会の委員長を務めている今田徹東京都立大学名誉教授は、「これからの時代はインフラの維持管理を考えて長期の耐久性という点を十分に検討していくことが重要だ」と話しています。

最終的な報告書は、早ければ来月にもまとまる見込みで、国土交通省は、今後の道路の維持管理に反映させることにしています。